

縦 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 「総合的な探究(学習)の時間」に、主体的に取り組んだと自己評価する生徒が70%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心・能力に応じて自主的に取り組めるよう複数のコースを用意し、支援、助言を行う。 ・自己表現が苦手な生徒が多いので、教科毎に様々な工夫を施して言語活動を取り入れ、授業アンケートによってその効果を検証する。 ・授業や学校行事、部活動を活性化し、個々の生徒の実態に応じて、学校生活や進路などについてきめ細かに支援する。 ・不登校等で学習機会に恵まれなかった生徒に、登校しやすい環境づくりを心掛け、基礎学力や社会性を、4年間かけて養うことで、自ら考え、前向きに生きる姿勢を身につけさせる。 ・各部活動の日常活動を支援し、対外的な大会に積極的に参加するように生徒を励ます。 ・英語検定、漢字検定、ビジネス文書検定、情報処理検定等を受検する機会を設ける。 	B	B	○各自のテーマが適切に判断しながら、探究活動ができるよう具体的な方法を指導していく。	A	B	○新教育課程の実施を踏まえ、各自のテーマについて、生徒が更に主体的に探究を進められるよう、興味・関心を引き出す工夫を模索していく。
		② 生徒の主体的な学習活動を促すため、授業で言語活動や学び合いを計画的に実施する教員が80%以上いる。		A	A	○定時制における生徒の特性もあり、生徒同士が学び合う環境を全ての学年で作出すことに難しさがあるが、教員を含めた話し合いや学び合いについて、できるところから学び合いの形を追求していく。	A	A	○昨年度以来の感染症拡大防止の観点から、ペアやグループでのワークがやりにくいことはあるが、今後も細心の注意を払いながら、話し合いや学び合いを通じた主体的な学習を推進していく。
	2 生徒にとって魅力ある学習環境が整備されていますか。	③ 「自分の学校が好きだ」と感じている生徒が70%以上いる。		A	A	○今後もきめ細かな指導を行い、生徒一人ひとりに目が行き届くようにする。また、個々の生徒が相手の立場や気持ちを尊重しながら人間関係を構築できるよう、学校行事や部活動等、様々な場面で支援していく。	A	B	○個々の生徒が持つ様々な特性を理解した上で、一人ひとりが本校定時制で学ぶことに安心感と充足感を持つよう、様々な場面で支援を行っていく。
	3 生徒の教育再生の場として、学習姿勢のあり方を指導するとともに、社会性を育んでいますか。	④ 継続して登校できるようになり、授業に前向きに取り組むようになったと認識している生徒が80%以上いる。		B	B	○登校しやすい環境、個に応じた指導を心がけ、これまで足りなかった部分を補えるよう指導する。	B	C	○今後も教育相談的な対応も重視しながら、生徒への目配り、声かけを行い、居場所作りを心掛けるとともに、学び直しも含め、基本的な学習内容が定着できるように授業についての工夫も行っていく。
II 生徒の意欲的な学習活動に適切な指導をしていますか。	5 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤ 部活動の大会や地区体育大会、各種検定等に積極的に参加している生徒が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各部活動の日常活動を支援し、対外的な大会に積極的に参加するように生徒を励ます。 ・英語検定、漢字検定、ビジネス文書検定、情報処理検定等を受検する機会を設ける。 	C	C	○生徒の状況によって部活動の参加状況は変動するが、活動する意欲のある生徒を支援する。また、総合学習等を通じて、各種検定を受けられる環境は常に整えておき、受検を積極的に呼びかける。	B	C	○部活動については、加入率が低いので、まずは部員を増やし下級生を中心に恒常な活動を促していく。検定試験についても教科指導を通じて多くの生徒に受験を呼びかけていく。
		⑥ 生徒の実態を踏まえて、習熟度に応じた指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上いる。		B	C	○定期的に授業改善に向けた会議を開き、生徒個人個人の特性に配慮した、個別指導・対話的学習などの積極的な導入に向け努力していく。	A	B	○近年学力差がより大きくなってきたことを踏まえ、上位者、下位者それぞれに個別の指導を今まで通り進めていく。下位者については従来より早期から取り組ませたり、学習障害が疑われる場合には通級などの利用も促したりすることなど、更にきめ細かな対応をしていく。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ 漢字テストを1年間に6回実施し、正解率7割以上の生徒が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の習熟度や諸事情に応じた個別的な指導を心掛け、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を図る。 ・漢字・計算ドリル等の補助教材を作成して、反復・継続的指導を行う。 ・国語及びLHR活動の時間を使い、全学年で社会人に必要な漢字の習得に取り組む。 ・生徒指導上の重要な情報は、その都度全職員が共有する。 ・生徒のよい変化を特に注視し、職員で情報を共有し、その他の場面でもいかにさせるよう支援する。 ・SHRや授業、部活動等あらゆる機会において生徒の様子を観察し、話の中からいじめの兆候をつかみ、対処する。 ・個々の事情を理解し、個人それぞれにあった1日の過ごし方について一緒に考えていく。 ・家庭との連携を密にし、家庭においても指導をしてもらう。 	C	/	○間違えやすい漢字を取り上げ、授業で解説をすることで、さらなる定着を目指す。(現在までに3回実施し、正解率7割以上 平均55.8%)	D	/	○様々な教科での活動を通じて漢字習得の重要性に気づかせ、更に多くの生徒が積極的に学習に取り組むように促していく。(第4回目 正解率7割以上47%)
		8 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。		⑧ 適切な指導が行えるように、毎日の打合せや休み時間等に、生徒に関する情報交換を行い職員間の連携を図る。	A	/	○生徒の状況をよく観察し、変化があれば職員間で共有する。さらに、生徒の問題を一人で抱えず、全職員で組織的に指導に当たる。	A	/
	9 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ いじめの未然防止、早期発見及び早期対処に努め、解消率が100%である。		B	C	○学校生活を細かく観察し、気になったら職員間で共有しきめ細やかな指導を行い、迅速に対応する。また、授業中の生徒のやりとりなどにも注意を払う。	B	B	○きめ細かな生徒観察を行いながら、変化が見られた場合には直ちに対応する。SNS上や教員から見えない部分でいじめが発生することもあるので、生徒にいつでも相談できることを認識させ、相談しやすくする。外部の相談機関も積極的に紹介する。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	⑩ 出席状況良好の者の数が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の希望にそった就職・進路情報を提供して勤労意欲を高め、職業適性についてじっくり考えられるよう指導する。 ・雇用主と連携して、協力関係を保つ。 	C	/	○欠席等の場合、家庭と必ず連絡をとり、特に生活習慣や健康管理についての情報を共有する。	D	/	○クラスの人間関係を良好にし、登校しやすい雰囲気をつくることともに、個々の悩みの早期解決に向けて支援する。
		11 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。		⑪ 上級学年の生徒を中心に、進路を考える機会を年3回以上設ける。	A	/	○LHRや授業前後の時間を使い、大学や就職についての具体的な手順等について全体及び個別に対応する。	A	/
	12 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑫ 生徒の進路希望について、理解している保護者が60%以上いる。		A	A	○ハローワークや大学、専門学校を積極的に訪問したり、進路講演会に参加したりすることで最新情報を入手する。	A	A	○最終学年になってから初めて本気で進路を考え始める生徒も散見されることから、低学年のうちから進路意識を醸成するよう指導を進める。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑬ 在校生の就業率が50%以上である。(アルバイトを含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師等による、進学や就職についての講演を実施する。 ・年2回以上の保護者面談や進路講演会を通じて進路選択について共に考え、質問に丁寧に対応する。 ・様々な学校行事で、地域の外部講師を招聘する(ただし、感染症の状況により中止の可能性もある)。 	A	/	○放課後に就職及び進学希望者に対して、志望理由書の書き方指導を継続して行う。	A	/	○外部の模擬試験を受験する生徒も現れ始めたので、このような機会があることを広く周知して参加を勧めていく。
		13 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。		⑭ オープンスクールや中学校訪問による学校説明、案内等を年3回以上行う。	B	/	○生徒の進路希望について保護者面談等を通じて確認し、生徒の支援の仕方について共通理解を図り、進路講演会などの行事を進路情報提供の場として活用していく。	A	A
	14 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑮ 家庭や地域社会に情報を発信するため「定時制便り」を年6回以上発行する。		A	/	○中学校教員や保護者などに定時制の魅力や直接訴え理解を得るとともに、在籍生徒の学校での様子を伝えることなどを通じて、本校定時制に対する信頼を確立する。(現在1回)	A	/	○今年度は低学年のうちから積極的に就業する生徒が増えた。さらに過半数が不登校経験者であることに留意しながらも、社会と積極的に関わられるよう指導を進める。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	14 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回以上実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が効果的な使用法を研究し、授業公開や校内研修等の機会を利用して成果を共有する。 ・全職員がスクールネットを使用して成績処理や指導要録・通知表等の作成をすることで、業務の効率化を進める。 	A	/	○仕事との両立を支えるため、個々の生活状況について把握し、必要なアドバイスを行う。	A	/	○必要に応じて雇用主との情報交換を行い、生徒への支援を進めたい。
		15 ICTを活用した業務改善を行っていますか。		⑰ ICT機器を活用した授業を行った教員が100%である。	A	/	○欠席等の場合、家庭と必ず連絡をとり、特に生活習慣や健康管理についての情報を共有する。	A	/
	15 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑱ ICT機器を活用して成績処理を行った教員が100%である。		A	C	○授業では、それぞれの教員が様々なICT機器を使用しているが、生徒保有の一人一台端末についても、さらなる利用を進めていく。	A	B	○外部から講師を招いての講演会等が、今年度は従来に近い形で実施できた。次年度さらに確実に実施していきたい。
				A	/	○感染対策を徹底した上で、可能な範囲で外部講師を招いての講演会等を実施していく。(現在までに3回実施)	A	/	○外部から講師を招いての講演会等が、今年度は従来に近い形で実施できた。次年度さらに確実に実施していきたい。
				A	/	○授業では、それぞれの教員が様々なICT機器を使用しているが、生徒保有の一人一台端末についても、さらなる利用を進めていく。	A	/	○ほとんどの授業でICTが活用されている。一方で、chromebookの授業での利用については、まだ教員間で温度差があるので、その積極的な活用を進めていく。
				A	/	○全職員がスクールネットを使用して成績処理や通知表・調査書等の作成をしており、各自が利用方法についてさらに熟達できるように進めていく。	A	/	○全職員がスクールネットを使用して成績処理や通知表・調査書等の作成をしており、次年度についても、各自が利用方法についてさらに熟達できるように進めていく。